

## 組織目標評価報告書(平成30年度)

部局名: 埋蔵文化財調査研究センター

部局長名: 菅 誠治

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b>	<b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<b>【教育方法・内容】</b> ・博物館実習の授業の一部を分担し、構内遺跡の調査・研究成果を活かした授業を実施する。 ・授業に際しては、少人数制をとり、自発的な思考や発言を促すことによって、授業内容に対する習熟度をあげる。 ・職場環境で実習することによって、社会的コミュニケーション力や実践力の育成を図る。 <b>【学生支援】</b> ・構内遺跡の調査や報告書作成あるいは情報発信の活動を業務とする本センターの職場環境を「働く場」として、幅広い分野の学生に提供し、社会性を育成するための教育視点と同時に経済的支援を行う。 <b>【その他】</b> ・教育・研究の場として、授業や学生の受け入れに努める。	<b>【教育方法・内容】</b> ・博物館実習の授業を受け入れた。受講生は19名で、2班に分かれて各2日間終日にわたる実習を行った。1班の構成人数を10名程度とし、当センター教員・職員に加えてTAをつけるなど、個別指導的な体制を整えることによって習熟度を高めた。授業では、有機遺物の取り扱いを組み込むことでその内容を深めた。授業終了時に設定した全学生の発表では、チームで課題解決に取り組ませることで、授業の習熟度アップに加えてコミュニケーション力の向上を図った。さらに、非常勤職員とともに作業を行うという職場環境の中で、実践型社会連携教育の効果を発揮することができた。 <b>【学生支援】</b> ・ワークスタディを利用して学生を2人雇用した。所属学部は工学部と文学部であり、複数の学部生を受け入れた。 <b>【その他】</b> ・博物館学の授業を1回受け入れて、当センター教員が授業を行った。
<b>①-2 年度計画との関連</b>	<b>①-2 大学全体への貢献</b>
<b>【教育方法・内容】</b> ・「年度計画2」に留意。課題解決型教育・実践型社会連携教育を目指した内容。 <b>【学生支援】</b> ・「年度計画19」に留意。学内雇用制度等により学生が学内で所得を得る機会を増やし、経済的支援を行う内容。	<b>【教育方法・内容】</b> ・「課題解決型教育・実践型社会連携教育」を目指す授業構成にすることで、「年度計画2」に寄与した。その効果は、授業後の学生アンケートでも確認できた。 <b>【学生支援】</b> ・ワークスタディを利用して学生を雇用することで経済的支援を行い、「年度計画19」に貢献した。
<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<b>【教育方法・内容】</b> ・博物館実習の授業は、1班10名程度を超えない構成とする。学生全員が発表する時間を確保する。 <b>【学生支援】</b> ・ワークスタディを利用する学生について、2学部以上・2名以上を受け入れる。	<b>【教育方法・内容】</b> ・授業は1班10名以下の少人数制を達成した。学生全員が発表する時間を確保し、3名のチームでプレゼンテーションに臨むという形態は、コミュニケーション力を高めつつ授業の習熟度をあげた。 ・ワークスタディによって2名の雇用を確保した。学生2名の所属は2学部である。すべての事項において目標値を達成した。
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	<b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<b>【研究水準及び研究成果等】</b> ・教員の個別研究を推進し、構内遺跡の研究成果とともに広く外部に発信する。 ・3次元計測器やドローンを使用した新たな測量技術の開発にとりくむ。 <b>【国際共同を含む共同研究の推進】</b> ・構内遺跡をはじめとする考古学・埋蔵文化財の調査・研究に関して、国内外の研究者と共同研究を推進する。 ・構内遺跡をはじめとする考古学・埋蔵文化財の調査・研究に関して、異分野の研究者と共同研究を推進し、世界水準の研究を目指す。 <b>【研究実施体制等の整備】</b> ・科研費の申請など外部資金の獲得のための申請を積極的に実施し、採択率の上昇に努める。 ・非常勤職員の技術力や専門的知識の育成を図り、調査・研究体制を強化する。 <b>【その他】</b> ・国内外の研究者・機関に対して、構内遺跡関連の考古資料や自然科学的試料を提供し、各学界における研究の深化に寄与すると同時に、研究拠点としての活動を積極的に推進する。	<b>【研究水準および研究成果等】</b> ・構内遺跡の調査・研究成果あるいは教員の個別研究を、発掘調査報告書や紀要に掲載したほか、展示会や公開講座を通じて社会に広く発信した。 ・GNSSを用いた測量と写真測量を、立会調査や発掘調査の測量に応用し、新たな記録技術の活用を推進した。同技術に加えて3次元計測器やドローンの活用で、半田山の崩落調査や倉敷真備町の水没域土倉デジタルドキュメンテーションの調査を学内外(教育学部・東京大学)の研究者と連携して進め、災害復旧支援につなげた。 <b>【国内外の共同研究】</b> ・国内では、科研費関連で2件、異分野研究者と4件の共同研究が進行した。その中には、沖積平野形成研究・測量技術関連研究・ミューオン分析等、世界水準を視野に入れた研究を含む。 ・海外研究者との研究では、調査・分析研究を伴う3件があげられる(ウズベキスタン・トルコ・台湾)。 <b>【研究実施体制等の整備】</b> ・科研費申請は140%(継続含)の申請率となった。新規の外部資金の獲得は2件(40%)である。 ・非常勤職員が顕微鏡撮影やデジタルトレースなどを積極的に担当し、調査・研究体制を強化した。 <b>【その他】</b> ・研究者への資料提供は5件で、その対象領域は考古学・医学系・農学部系の多岐に及んだ。 ・考古学研究室と連携して、二万大塚古墳の展示をバックアップし、研究成果の発信に寄与した。
<b>②-2 年度計画との関連</b>	<b>②-2 大学全体への貢献</b>
<b>【共同研究の推進】</b> 「年度計画27」に留意。異分野融合研究などの総合大学の利点を活かした特色ある研究プロジェクトを目指す内容。	<b>【共同研究の推進】</b> ・本年度実施した共同研究の中には異分野の研究者との連携が含まれる。その中には、沖積平野の形成や災害関連の調査など、岡山大学の立地や研究環境(学内研究者の存在)に依拠するものが含まれており、総合大学である本学の特色あるプロジェクトの基盤作りとして、「年度計画27」に資するものとなった。 ・外部資金の獲得において新規に2件を獲得し貢献した。
<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<b>【研究水準及び研究成果等】</b> ・教員の口頭および論文の発表数を3件以上とする。 ・測量技術開発に向けた活動を1件実施する。 <b>【国際共同を含む共同研究の推進】</b> ・国内外あるいは異分野の研究者との共同研究を3件以上実施する。 <b>【研究実施体制等の整備】</b> ・科研費等の申請率は100%以上とする。	<b>【研究水準および研究成果等】</b> ・教員の口頭および論文発表数は20件を超えており、目標値を大きく上回った。 ・測量技術開発に関連した活動は4件であり、目標値を上回った。 <b>【国際共同を含む共同研究の推進】</b> ・国内外・異分野研究者との共同研究は9件を数える。目標値を上回る数である。 <b>【研究実施体制等の整備】</b> ・科研費を含む申請率は継続分を含めると140%であり、目標値を昨年度以上に上回った。

<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>③-1 目標</b>	<b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<p>【地域社会との連携、社会貢献について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座・展示会などを開催し、構内遺跡の調査をはじめとする研究の成果を積極的に発信し、社会に向けて大学からの知の還元を図る。</li> <li>・地域の埋蔵文化財に関する事案に対して指導的な助言を行い、地方公共団体などの埋蔵文化財行政に寄与する。</li> <li>・自治体などが開催する講座や地元の教育委員会の要望に協力し、大学からの知の還元を図ることで、社会連携を推進する。</li> <li>・構内遺跡の調査成果を活用して、地元の小・中学校の教育活動に協力する。</li> <li>・本学周辺地域の「まっつくり」活動に協力し、地域の活カアップに貢献する。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構内遺跡の研究成果をベースにした明るい話題を社会に提供し、岡大のイメージアップにつながる活動を実施する。</li> </ul>	<p>【地域社会との連携、社会貢献について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座を3回開催した。講師は関連科学の研究者と本センター教員で構成し、出土遺物の展示を加えることで、構内遺跡の調査・研究成果を効果的に発信し、社会に向けての知の還元に寄与した。</li> <li>・展示会を7月27日～30日に鹿田地区のJホールで開催し、同時に講演会を開催した。</li> <li>・県内外の行政機関からの依頼に応じて指導的な助言を行い埋蔵文化財行政に寄与した。</li> <li>・県内外からの講師依頼に応じて、知の還元を図り、社会連携活動を推進した。</li> <li>・地元中学校からの「職場体験」の要請に対して生徒を受け入れ、構内遺跡の調査成果を活かした作業内容を用意して教育活動に協力した。</li> <li>・鹿田学区町内会の「鹿田夏祭り」(6月開催)への参加要請に応じて、出店および「しかたん」(鹿田遺跡イメージキャラクター)出演によって地域の活カアップに貢献した。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオス考古学支援研究プロジェクトに協力し、ラオスの考古学研究機関に発掘機材を提供することで、国際協力活動に寄与した。</li> <li>・史料ネットの活動に対して資材・器財を提供し、災害復旧関連活動に協力した。</li> </ul>
<b>③-2 年度計画との関連</b>	<b>③-2 大学全体への貢献</b>
<p>【地域社会との連携・社会貢献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「年度計画47」に留意。学内の研究情報の提供、学術的な知を易しく紹介する公開講座を開催する内容。</li> <li>・「年度計画48」に留意。地方自治体との連携を拡大・強化し、大学の知見を社会へ還元する内容。</li> </ul>	<p>【地域社会との連携・社会貢献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座や展示会の開催あるいは印刷物によって、「年度計画47」に寄与した。</li> <li>・地方自治体との連携に関連して、岡山県内に限らず中四国を対象に、埋蔵文化財等に関連した指導的活動や講座講師などに応じることで「年度計画48」に貢献した。</li> </ul>
<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<p>【地域社会との連携、社会貢献について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座を年間3回、展示会1回を開催する。</li> <li>・地方公共団体等に、4件以上の委員会・審議会を通じて埋蔵文化財行政の問題に助言を行う。</li> <li>・自治体などが開催する講座などに年間1件以上は協力する。</li> <li>・地元中学校の職場体験を年間1件以上は受け入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座開催は年間3回、参加者は合計120名、展示会開催は1回、入場者数は136名である。</li> <li>・岡山県内5件、県外2件の審議会・委員会等を通じて、埋蔵文化財行政などへの助言を行った。</li> <li>・島根県からの講座講師依頼2件に応じた。</li> <li>・地元中学校からの職場体験の依頼に対して2校6名を受け入れた。</li> </ul> <p>いずれの事項も、目標値を上回った。</p>
<b>④センター業務</b>	
<b>④-1 目標</b>	<b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<p>【法令遵守へのとりくみ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構内遺跡に対して、建築工事の伴う発掘調査や立会調査などを適切に実施する。調査にあたっては、その効率化と質の向上に努める。</li> <li>・発掘調査報告書作成のための整理作業を推進し、発掘調査報告書を刊行する。</li> </ul> <p>【定期刊行物の刊行】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2017』・『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』60号・61号を刊行する。</li> </ul> <p>【遺物の保存・管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木製品の保存処理を進める。</li> <li>・保管遺物について確実に活用しやすい管理体制の構築を目指す。</li> </ul>	<p>【法令遵守】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿田地区で1件の発掘調査(第28次)、津島地区で1件の確認調査を実施した。学内の小規模工事については立会調査で対応した。いずれにおいても、法令遵守のもとに調査の効率化と質の向上を図った。</li> <li>・報告書作成に関して5件の作業を進め、1件(鹿田遺跡26次調査)の発掘調査報告書を刊行した。</li> </ul> <p>【定期刊行物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定通りに定期刊行物(紀要2017、センター報60・61号)を刊行した。</li> </ul> <p>【遺物の保存・管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木製品の保存処理を実施した。</li> <li>・遺物の保管体制について、非常勤職員の専門的知識の育成を通じて体制の強化を図った。</li> </ul>
<b>④-2 年度計画との関連</b>	<b>④-2 大学全体への貢献</b>
<p>【法令遵守】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「年度計画92」に留意。法令等に基づく適正な運営を目指した内容。</li> </ul> <p>【定期刊行物の刊行】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「年度計画85」に留意。研究活動や大学運営に関する情報を、積極的かつ分かりやすく国内外に発信する内容。</li> </ul>	<p>【法令順守】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺跡内の工事に対して適切に対応しつつ、義務化されている発掘調査報告書を刊行し、「年度計画92」に寄与した。</li> <li>・鹿田地区の工事に伴う発掘調査を実施し、法令遵守と同時に大学施設の整備に貢献した。</li> </ul> <p>【定期刊行物の刊行】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期刊行物を計画通りに刊行し、「年度計画85」に寄与した。</li> </ul>
<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<p>【法令遵守】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発掘調査を1件実施する。</li> <li>・発掘調査報告書作成のために整理作業4件を実施し発掘調査報告書1冊を刊行する。</li> </ul> <p>【定期刊行物の刊行】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紀要1冊とセンター報2回を刊行する。</li> </ul> <p>【遺物の保管・管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木製品の保存処理を1シーズン実施する。</li> </ul>	<p>【法令遵守】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発掘調査1件を目標通りに実施した。</li> <li>・鹿田遺跡の発掘調査報告書を1冊刊行し、報告書作成のための整理作業5件を実施した。</li> </ul> <p>【定期刊行物の刊行】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期刊行物として、紀要1冊とセンター報2回を刊行した。</li> </ul> <p>【遺物の保管・管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木器処理は1期分を実施した。</li> </ul> <p>すべての事項で目標値を達成した。</p>

<b>⑤管理運営領域</b>	
<b>⑤-1 目標</b>	<b>⑤-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<b>【部局運営体制の改善強化】</b> ・本センターの運営委員を補充し、体制の強化を図る。 <b>【部局組織の活性化について】</b> ・大学博物館構想に向けて、社文研の新研究所構想とのすりあわせを積極的に進める。 <b>【ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)】</b> ・新運営委員は女性教員から選出し、運営委員会の女性比率を高める。 <b>【効率的・戦略的な予算配分・執行について】</b> ・本センターの研究費を、構内遺跡の研究あるいは遺物の保存処理などに配分し、調査成果の深化を図る。 <b>【安全衛生に対する配慮】</b> ・安全衛生担当委員を中心に周知徹底を図る。 <b>【施設整備の推進】</b> ・センター建物の老朽化に対して、適切な修理を行うことで、長期利用に備える。 <b>【法令遵守の徹底】</b> ・様々な法令遵守を徹底するために、毎月の会議で注意喚起を促す。 ・各種研修・講習に積極的に参加する。 <b>【その他】</b> ・ホームページの改善を図り、積極的な情報発信に資する。	<b>【部局運営体制の改善強化】</b> ・運営委員1名を新たに選出し、運営面・研究面の強化を図った。 <b>【部局組織の活性化について】</b> ・本センターの将来構想を踏まえて、社文研が推進する文明動態学研究所構想に参画し、有益な情報提供・提案を行った。 <b>【ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)】</b> ・運営委員に女性教員を選出し、同委員会の女性比率を高めた。 <b>【効率的・戦略的な予算配分・執行について】</b> ・研究費を、鹿田遺跡出土木製品の保存処理と漆分析の経費に当て、調査成果の深化を図った。 <b>【安全衛生に対する配慮】</b> ・安全衛生担当委員を中心に周知徹底を図った。 <b>【施設整備の推進について】</b> ・資料保管のための収納スペースを、旧工学部15号館に確保した。 <b>【法令遵守の徹底について】</b> ・様々な法令順守を徹底するために、毎月の会議で注意喚起を促した。 ・各種研修・講習に積極的に参加した。 <b>【その他】</b> ・公開講座の有料化を継続し、自己収入増加の試みを推進した。 ・ホームページの更新によって、積極的な情報発信を心がけた。
<b>⑤-2 年度計画との関連</b>	<b>⑤-2 大学全体への貢献</b>
<b>【安全衛生】</b> ・「年度計画89・91」に留意。安全衛生推進機構を中心に、安全衛生に関して全員の意識の向上を図る。 <b>【法令遵守】</b> ・「年度計画92・93」に留意。様々な法令遵守事案に対して、全員に注意喚起を図る。 <b>【ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)】</b> ・「年度計画71」に留意。指導的立場の女性登用を進める。 <b>【その他 情報発信】</b> ・「年度計画85」に留意。情報公開・情報発信の推進を図る。	<b>【安全衛生】</b> ・安全衛生推進機構からの指示に積極的に取り組み、「年度計画89・91」に貢献した。 <b>【法令遵守】</b> ・法令遵守事案に関して、積極的に周知徹底を図り「年度計画92・93」に貢献した。 <b>【ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)】</b> ・運営委員に女性を選出し、指導的立場の女性登用を進めたことで、「年度計画71」に貢献した。 <b>【その他 情報発信】</b> ・ホームページを通じて情報発信を進め、「年度計画85」に寄与した。
<b>⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<b>【部局運営体制の改善強化】</b> ・運営委員1名を選出する。 <b>【ダイバーシティの推進】</b> ・運営委員会の女性の比率を、現在の約10%を約20%に上昇させる。	<b>【部局運営体制の改善強化】</b> ・運営委員1名を選出した。 <b>【ダイバーシティの推進】</b> ・運営委員会の女性比率を、約20%に上昇させた。 目標値を達成した。
<b>【総括記述欄】</b>	
<p>センター業務では、発掘調査1件を実施しつつ、発掘調査報告書1冊を刊行した点が大きな成果である。本年度は、発掘調査のために教員2～3名が4ヶ月にわたって鹿田地区の発掘現場に常駐することとなった。そのため、時間的に活動が制限されたが、全体として定期刊行物・公開講座・展示会・木器保存処理など例年通りの活動を完了し、ほぼ予定通りの成果を上げられた点は評価されよう。研究面では、目標値を上回る数値が示すように、個別教員の活動の活発化が指摘される。特に若い世代を中心に、異分野融合研究・海外研究者との共同研究が際立つ年度であった。また、本年度の特徴として注目されるのは、災害復旧支援に関わる調査・研究活動である。同活動で活用された新たな測量技術は、同時に構内遺跡の調査においても効率的な作業を生み出す結果となり、今後の記録方法への影響が期待される。運営面では前年度から開始した公開講座の有料化について、定着化に向けての手応えが得られた。前年度からの様々な挑戦(各イベントの有料化・クラウドファンディングの企画など)が実を結んだ一例といえる。以上の諸活動を維持できた事務局との密接な連携・協力体制についても評価しておきたい。</p>	